

令和 4 年度

事業所名 : グループホーム きらら

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372100974		
法人名	医療法人 徳政堂		
事業所名	グループホーム きらら		
所在地	〒028-4304 岩手県岩手郡岩手町大字子抱8-110-7		
自己評価作成日	令和4年8月31日	評価結果市町村受理日	令和4年12月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は国道4号線から少し離れ、車の通りも少ない静かな場所に位置しています。周囲は田畑や姫神山などが一望でき、一年を通じて四季の移り変わりを楽しむことができ、昔から変わらない田舎の風景の残っている所です。理念にも掲げているように、職員と入居者が共に暮らし、職員が壁を作らない関係を心がけ、常に入居者の方々が自分らしく生活できるよう、一人ひとりの不安やニーズを把握し、きめ細やかな対応を心掛けることで穏やかに過ごせるよう支援しています。園庭では、野菜作りや花植え、草取りなどができます。季節のとれた野菜を召し上がっていただいています。また、当施設は医療法人であることもあり、定期的な訪問診療と訪問看護など医療支援体制があり、健康管理が充実しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhyou](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

窓から見える姫神山の眺望が素晴らしく、周囲の田園風景も心を穏やかにさせてくれる。事業所は木を多く用い、木造のサンルームやウッドデッキを含めて利用者本位の過ごしやすい空間となっている。事業所理念は具体的で分かりやすく、共に暮らし、壁を作らず、自立を促すことが日常のケアの中に自然に生かされ、職員相互の意識の共有と実践へ取り組みが徹底されている。特に、日頃からの地域住民、小・中学生等との頻繁な交流、敷地内の畑で利用者と職員が一緒につくった野菜を中心とした食事の提供、更には職員の長年のスキルに基づくケアとが相まって、利用者は穏やかに日々の生活を過ごしている。また、医療法人が経営する事業所として、週3回の訪問診療、月2回の看護師の訪問があり、適切な医療提供体制が構築されている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年10月20日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が ○ 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が ○ 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名 : グループホーム きらら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に見える場所に掲示し、意識付に取り組んでいる。	具体的で分かりやすい事業所運営理念は、玄関正面など職員の目の届く場所に掲示されているほか、定期研修の中でも職員同士で確認されている。また、日頃から利用者には親しみを込めて声掛けし、利用者の介護度を上げないよう、一日2回の体操、回廊式の通路を5周する運動を取り入れている。日常の生活の場面でも、調理・洗濯・畑づくりなどを職員と共に行うなど、介護サービスの中に理念が反映するよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の振興会に加入し、地域行事に参加していたが近年の感染症流行に伴い参加行事が減っている。	地区振興会(自治会)に加入し、総会にも職員が交代で出席するなど、地域の一員として受け入れられている。地域の住民から野菜や花の苗をいただいたり、草刈りや除雪の支援も受けている。現在はコロナ禍で難しいが、小学校や中学校との交流が盛んであり、中学生は、事業所周围の草取り、クモの巣取りのボランティア活動に来訪しているほか、学校行事に利用者が訪問するなど、相互に理解を深め、世代を越えた繋がりを築いている。	設立から18年を経過し、地域にしっかり根付いた事業所となっている。今後は、災害時に適切な役割分担のもと具体的な支援が受けられるよう、一歩踏み込んだ関係づくりを進めるとともに、小中学生との交流は利用者への刺激になるとともに、若い世代にとっても介護について理解を深めることは有益であることから、更なる交流の活発化を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方や訪問者に対する相談には対応している。また、職場体験など地域の学生の受け入れを行っていた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染症流行に伴い、書面開催が続いている。会議資料に情報をこれまで以上に詳しく記載することで情報発信に努めている。	運営推進会議には、家族や利用者も委員として参加している。今年度はコロナ禍で対面開催は10月のみであったが、年1回行っている家族アンケートの結果やヒヤリハット事例について報告している。日常生活ぶりを紹介するため、毎月家族に送付している「きらら通信」などの情報提供に対しても、委員から様々な意見が出されている。会議を通じ地域に協力をお願いすると、畑の堆肥をいただいたり、花の苗植えに10人程の住民が集まったりと、地域との繋がりを広める場としても会議が機能している。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム きらら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	メールなどで情報提供を頂いている。推進会議資料や役場訪問時に交流を図るなど工夫している。	運営推進会議のメンバーの地域包括支援センター職員からは、介護情報の提供をいただいたり、事業所職員が役場に寄った際には、担当課等の関係先には必ず顔を出すよう心掛けている。事業所の活動や取組等を行政サイドに伝え、町からはコロナ対策の物資の提供を得るなど、様々な協力を受けながら、相互に連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内出入口は施錠せず、ウッドデッキや園庭など自由に出入りできるようにしている。夜間は防犯上の理由から施錠を行っている。施設内研修において身体拘束について定期的に学び職員の意識向上に努めている。	職員自身が講師となって、定例研修会で身体拘束について実例を基に学ぶ機会を定期的に設け、理解の徹底と認識の共有を図っている。施設内の出入口は防犯のため夜間のみ施錠しているが、日中は職員の見守りのもと、園庭やウッドデッキなどに自由に出入り出来るようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修で定期的に学び意識向上に努めている。また、職員間の交流を図り相互に相談できる関係を構築している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修を通し権利擁護等の制度について学んでいる。利用者状況に応じ、相談等を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、及び法改定等において文書・口頭にて説明を行い同意を得ている。不明点や疑問等がある場合はいつでも対応する旨を伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年一回の家族アンケートの実施や、来訪時に家族と交流を図り意見や要望、満足度について情報を収集している。結果については、運営推進会議や法人運営会議等で情報を共有している。	年1回職員の接遇などについての家族アンケートを実施し、家族の意向把握に努めているほか、事業所訪問時には努めて意見や要望を伺うようにしている。アンケートの結果を受け、情報提供誌を写真中心に見直し、利用者の顔写真や事業所内での様子を多く掲載して、日常の状況が細かく伝わるよう改めている。なお、家族アンケートの結果は運営推進会議や法人の運営会議で説明している。	

事業所名 : グループホーム きらら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等で職員間の意見交換を行っている。内容については法人運営会議等で共有を図っている。	職員の意見、要望は毎朝のミーティングや日中の業務の中で管理者が聞いたり、利用者の変化や注意点を日誌に記載することで、利用者のケアについて必要な対応が出来るようにしている。運営推進会議後に行う職員の定例会議の場で意見を出し合い、必要に応じてケアの見直しに繋がっている。	職員との定期的な個別面談の機会を設け、率直かつ幅広い意見を把握することで、職員のモチベーションを高めるとともに、より多様で柔軟な利用者へのケアの質的向上に繋げることを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は勤務状況や勤務に対する姿勢等を代表者へ報告を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を策定し、施設内及び外部研修に参加し研鑽している。現場で反芻できるような機会を設けている。オンライン研修を受ける環境がないため法人と環境整備について協議中である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に属している。主に文書等での交流となっている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前面談や入所後の交流など信頼関係の構築に努めている。言葉だけではなく、行動や視線、表情などにも注意を払い対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前面談で聞き取りを行い、入所後は来訪時などを活用し情報の共有に努め合わせて家族状況や心境の変化などをくみ取るよう努めている。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム きらら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前面談や入所後の状況に応じ、他のサービスについての説明や情報の提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者、職員が互いの意見を持ちながら活動できるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活状況の報告などを行い、家族と情報の共有を図り支援の在り方について家族の意見を伺い関係性の構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍であり、外出や面会に制限が生じている。流行の状況に応じ、可能な限り面会等を行い関係性が途切れないよう努力している。	本人の馴染みの人や場は、入居時や要介護認定申請時にアセスメントシートで確認しているほか、利用者との話の中からも汲み取るよう心掛けている。刃物を扱う仕事をしていた人には包丁研ぎをしてもらい、畑仕事をしていた人にはいつ何を植えたらよいかを教わっている。また、季節のドライブや車で通院の際に、実家や思い出の場所を巡り、利用者の思い出を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が交流の橋渡しとなれるよう介入している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も家族等の相談や、状況に応じて関係機関の情報提供などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のコミュニケーションを大切に、言葉だけではなく表される意向についても察することが出来るよう努めている。	利用者のさりげない話の中に気になるキーワードが出ることもある。そこに隠されている本人の思いを汲み取り、朝のミーティングで職員間で意見交換し、以後の支援に役立っている。また、「これをしてほしい」、「こうしたらどうか」と利用者から話してくることがあり、それは必ず実現するよう心掛け、紙の花づくり、スイカ割り、アクリルたわし作りなどのリクリエーション活動に取り入れたり、工夫しながら生活支援に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所申し込み時や入所前面談等で聞き取り、情報の収集を行っている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所申し込み時や入所前面談等で聞き取り、情報の収集を行っている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望を聞き取り、モニタリングやミーティングを通し計画の見直しを行っている。	ケアプランは管理者が作成している。入居時には自宅で本人、家族から要望を聴きながら本人、家族と一緒に作成し、入居後は居室担当職員のモニタリング結果に基づき、3月毎に必要な応じた見直しを行っており、見直しを行った場合は職員と内容を共有している。本人の状態に変化があった場合には、その都度見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りなどを通して情報の共有に努めている。文章化の難しい事柄については口頭で補うなど伝達の工夫を行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズの把握に努め、必要に応じミーティングを行ったり、関係機関に相談するなど善処に努めている。			

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム きらら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域環境の変化に応じ、利用できる地域サービスを取り入れている。感染対策を行い、外出支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人の医療機関の医師がかかりつけ医となっているため、報告・相談等を行いやすく随時指示等を受け適切な医療提供へとつなげている。	利用者全員が法人内の医師をかかりつけ医とし、週3回の訪問診療を受けているほか、法人の看護師が月2回訪れ、適切な医療を受けられる体制が出来ている。耳鼻科や眼科などの専門診療科は紹介状を作成して家族が連れ添って受診し、歯科は協力医が対応している。現在は管理者が看護師資格を有しており、日常の業務で看護業務を担う場合もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状況の報告を行い、助言等を受け対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時の情報提供を行い、医療機関へ対応担当者等をお知らせし入院中の情報の共有が出来るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り指針を作成し、健康状態や家族の意向を含め柔軟な対応が出来るよう努めている。また、かかりつけ医へも家族の意向を伝え治療の方向性の検討などを行っている。	看取り指針が作成され入居時に家族に説明している。希望がある場合はできる限り事業所内の生活が続くよう医師や看護師の指導のもと柔軟に対応している。どうしても医療措置が必要になった場合には、医療機関への入院や介護施設への住み替えを支援している。事業所での看取りの経験はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修や避難訓練等を通して学びの機会を設けている。		

事業所名 : グループホーム きらら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月の避難訓練を通して職員の行動概要の把握に努めている。地域の防災訓練に参加している。	町のハザードマップで、浸水区域に指定されている。毎月事業所の園庭までの避難訓練を行っているほか、年2回総合訓練として、地域の方々の協力を得て、車で移動する訓練も行っている。夜間想定訓練の経験もある。指定避難所は近くの公民館になっているが、発災時にはベッドや機材等が完備されている法人の医療機関に避難することになっている。非常時の食料等の備蓄は最低でも3日分を確保している。現在、業務継続計画（BCP）の策定を進めている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	出来ることを尊重し、本人のペースに合わせ自尊心を尊重した支援を心掛けている。人生の先輩であり共に生活する仲間として互いへの敬意が払える関係性を目指している。	プライバシーを確保するため、本人の意向を前提に、着替え・排泄・入浴時は利用者から離れて見守りを行っている。睡眠時もドアを閉めるかどうかは本人に任せている。尊厳の保持については、共に暮らす仲間としての敬意を払いながら、利用者が嫌がったり、気分が乗らないときは、本人の意向を優先させる対応をしている。	職員それぞれが日常の介護の中で利用者一人ひとりのアセスメントを行い、個々の歴史をひも解き、更に、本人への理解を更に深めながら、より充実した支援に繋げていくよう期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常支援でも自己決定を促す声掛け支援や、表情や行動に注意を払い推察できるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自己決定を促す声掛け支援を心がけている。寝たきりや閉じこもりにならないよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な理容サービスの利用を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日は希望食の提供、行事食では出前をとったり、一緒に食事を作ったりしている。畑で収穫した野菜のした処理など季節の食材に触れることが出来るよう支援している。	基本的に献立はなく、利用者と一緒に畑から収穫した野菜を中心に、当番のスタッフが手持ちの食材を調理し、季節のものを味わえるような食事を提供している。行事食として、誕生会、敬老会、クリスマスなどでは、仕出しや出前の食事を提供している。また、月1回は職員と利用者が一緒に行う「手作り会」を開き、先月は豆を枝から取って皮むきして作ったずんだもちを一緒に食べるなど、作る食を楽しんでいる。	



令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム きらら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事・水分の摂取量を把握し、体重の増減を見ながら個々に合わせて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの促しや週に2回洗浄剤を使用し清潔の保持に努めている。食事摂取の状況に応じて口腔内の観察も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を目標に時間誘導等の支援を行っている。	二つの居室ごとにトイレが目の前に1箇所あり、通路に出るとすぐトイレに行ける配置となっているため、居室にポータブルを置いている利用者はいない。排泄時間を毎回チェックし、それをもとに自然な誘導もできており、おむつを手放せなかった入居者の失禁が少なくなるなど、排泄の自立に向けた支援ができています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の運動や食事内容に配慮しながら便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を行っている。個々の希望時間に沿えるよう努めている。楽しい時間となるよう会話をしたり、入浴剤を使用するなど工夫している。	入浴は週2回、基本は水曜日、土曜日の午前から午後にかけてとしているものの、利用者の希望の時間帯にできるだけ沿えるよう対応している。時々入浴に抵抗を示す利用者には、時間をずらしたり、日を変えたり、起床時に浴室に誘導するなど、入浴が楽しみになるよう工夫して対応している。これからの冬場は特に肌が乾燥するため、入浴後のスキンケアにも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活環境を整え安眠への支援を行っている。個人の状況に合わせて休養をしているが、閉じこもりや寝たきりにならないよう注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医、訪問看護師、薬局薬剤師などからの情報を確認、共有し必要に応じ状況の報告等を行い適切な服用に努めている。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム きらら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせた趣味活動の提供や、日常の家事活動等を通じ張り合いのある生活となるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブなどを行っている。感染症対策の為外出機会は減少している。敷地内散策や日光浴など代替え支援を行っている。	春はお花見、秋は紅葉など季節ごとに遠出のドライブを楽しんでおり、7月には石神の丘美術館からのお誘いでラベンダー園まで特別に車で上がり、一面のラベンダーを楽しんできている。また、月1回の法人診療所での定期検査の際には、遠回りをして普段行けない場所や四季の移り変わりを利用者が楽しんでいる。出来るだけ事業所の敷地内を散策したり日光浴を行うなど、内に籠らないような支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の要望に対応しているが、現在は本人が直接店舗へ赴くことは行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎや、希望により家族へ電話ををするなど対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた装飾を一緒に作り飾り付けている。窓を開放し屋外の様子を見られるようにしている。温度や湿度など過ごしやすい環境となるよう努めている。	共用部分の壁面の半分以上には、利用者が趣味活動でつくった絵や織物、細工物、中学校の生徒の寄せ書きのパネルなどが飾られている。いずれも利用者本人が作ったものや生徒の心がこもったものであり、利用者には良い刺激となっている。反面、各個室は飾り物があまりなく、いたってシンプルでそのバランスがほど良い調和を保っている。また、ウッドデッキやサンルームを利用しての外気浴は、利用者の人気が高い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの設置、畳小上がり、ウッドデッキやウインターガーデン、園庭など好きな場所を利用できるよう工夫している。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム きらら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものなど自由に持ち込めるようにしている。また、趣味活動等で作成した作品を居室内に飾り付けるなど個々の空間作りに努めている。	ベッド、筆筒、洗面台が備え付けられ、使い慣れた日用品の持ち込みは自由になっている。利用者によっては趣味活動で作ったものを飾ったりもしているが、比較的室内はシンプルな様相を見せている。週1回のリネン交換のほか、掃除は利用者とスタッフで一緒に行い、綺麗かつ清潔で心が落ち着く居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室ネームプレートやトイレ等の表記で分かりやすい環境作りに努めている。家具等の配置にも気を配り自立動作の妨げとならないように配慮している。		